



JAPAN HERITAGE

日本遺産

Technoimage in Rure
鉄の記憶
Project

講演会テーマ

海軍の技術と教育

Technical Education and Innovation in Japan's Naval Arsenal

陸に生きる大和たち ―日本の近代化を支えた人材教育―

日本遺産 MONTH 特別講演会

お申し込み方法(定員になり次第締め切り)

(写真資料) ダイクレ創業者・山本茂が呉海軍工廠の造船技師だった頃に撮影された肖像写真/提供:株式会社ダイクレ

受付期間 10月1日(水)～10月31日(金)

[1] 専用フォーム(下記QRコードから)

お申し込み
フォーム

google フォームへ移動します



[2] 往復ハガキに必要事項①～⑤をご記入の
うえ、下記宛先までお送り下さい。

- ①郵便番号・住所
- ②参加者氏名(フリガナ)
- ③同伴者の有無/1名まで
- ④お電話番号
- ⑤車イス等の特記事項

宛先:〒737-2516 安浦郵便局私書箱第5号

日本遺産 MONTH 特別講演会

(鉄の記憶プロジェクト事務局) 行

2025年11月16日[日]

●第1部:午後13時30分～14時30分 ●第2部:14時45分～16時00分(途中休憩15分)

開場:13:00

13:30 — 16:00

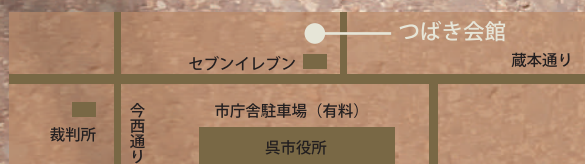
つばき会館

広島県呉市中央6丁目2-9 電話:0823-25-3593

事前申込み

定員 200名

参加無料



主催:鉄の記憶プロジェクト 後援:呉市 協力:株式会社ダイクレ

海軍の技術と教育

Technical Education and Innovation in Japan's Naval Arsenal
陸に生きる大和たち ―日本の近代化を支えた人材教育―

事前申込み 2025年11月16日[日]
定員 200 名
参加無料 開場 13:00 13:30 — 16:00



戸高一成（呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長）日本海軍史・書誌学を専門とし、艦艇建造史から戦略思想まで幅広く研究。多摩美術大学卒業後、財団法人史料調査会主任司書・理事、昭和館図書情報部長を歴任し、2005 年より呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長。著書に『戦艦大和復元プロジェクト』『戦艦大和に捧ぐ』『聞き書き・日本海軍史』『証言録 海軍反省会』（第 67 回菊池寛賞）『日本海軍戦史』。編・監訳に『戦艦大和・武蔵設計と建造』『秋山真之戦術論集』『マハン海軍戦略』。共著に『日本海軍史』『日本陸海軍事典』『日本海軍はなぜ過ったか』。さらに The Oxford Encyclopedia of Maritime History (2007) において東郷平八郎や呉海軍工廠の項目を執筆。



鈴木 淳（東京大学大学院人文社会系研究科教授）専門は日本近代史・産業技術史。博士論文に基づく『明治の機械工業 その生成と展開』や、工部省や海軍工廠を中心とした技術制度と機械工業の展開を実証的に研究。著書に『工部省とその時代』『新技術の社会誌』『維新の構想と展開』など。近年は関東大震災の技術社会史や都市史にも取り組み、軍事・産業技術と近代国家形成の関係を多角的に検証している。



千田 武志（広島国際大学客員教授）専門は日本近代経済史・軍事史。広島大学大学院で経済史を修め、呉市史編纂室長として市史編纂事業に長年携わる。広島国際大学教授として医療史・地域史にも携わる。著書『呉海軍工廠の形成』は同工廠研究の基本資料とされ、海軍工廠の技術移転や兵器産業、日英関係の研究でも知られる。現在も地域史と国際的視野を結ぶ研究を続けている。



山本 貴（株式会社ダイクレ代表取締役社長）祖父は呉海軍工廠の技師で大呉興産株式会社（現・株式会社ダイクレ）創業者の山本茂。貴氏は証券会社勤務を経て1992年ダイクレ入社。営業本部長、建材・環境事業本部長などを歴任し、2021 年より現職。企業の伝統を継承しつつ、グレーチングを中心とする基盤製品に加え、建材・環境・エネルギー分野の拡充を推進。「ものづくり」の基本理念を念頭に「総合建材メーカー」を目標に社業の発展を主導している。



澤原 義明（東京被爆二世・三世の会「おりづるの子」副会長）父は東京帝国大学造船学科出身で呉海軍工廠の造船士官を務め、戦後は株式会社ダイクレの創業に参画、作家阿川弘之とも交流を持った。母は被爆後に白血病で 36 歳で逝去し、その手記は戦後の原爆症研究や記憶継承に重要な資料となっている。義明氏は被爆二世研究の現場で証言・講演を行い、軍港都市呉の造船史と被爆者家族史を重ね合わせた視座を提示している。

【お問い合わせ】
日本遺産 MONTH 特別講演会（鉄の記憶プロジェクト事務局）
〒737-2516 安浦郵便局 私書箱第 5 号
Tel : 090-7520-1971
E-mail : lecture@vomlab.org（講演会係）
*講演会の申し込み窓口は別途、Google フォーム、または往復はがきでお申し込みください。

日本遺産「鎮守府横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」のストーリーを広く市民と共有することを目指します。

近代日本の造船・造兵・製鋼を支えた呉の歩みを振り返り、海軍工廠における技術教育と人材育成の意義を示すとともに、戦後へと受け継がれた「人づくり・ものづくり」の精神を紹介します。

講演会では、職工・技手・技師の教育制度とその役割を解説し、戦艦大和建造に関わり、戦後に平和産業を興した山本茂氏の生涯を資料や証言とともに取り上げます。これを通じて、呉が培ってきた産業・教育・人材の系譜を共有し、地域の歴史文化資源への理解を深める契機とします。



JAPAN HERITAGE

日本遺産



タイムスケジュール

13:30 — 14:30

第 1 部 海軍の技術

開場 : 13:00

職工から技手・技師への道は、優れた技術教育によって開かれ、多くの若者が技術者を志した。明治期以降の造船・造兵・製鋼技術導入や、横須賀・呉海軍工廠の教育と技術者養成の歴史を振り返る。

登壇者

鈴木淳 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授
千田武志 | 広島国際大学客員教授
戸高一成 | 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長

14:45 — 16:00

第 2 部 海軍で学んだ技術の伝承
山本茂とダイクレを例として

休憩 15 分

海軍工廠の技術教育により、最終的には戦艦大和の建造にも携わった呉海軍工廠造船部の技師・山本茂の生涯を通して、海軍工廠で培われた高い技術力が戦後の平和港湾都市・呉における起業、新たな技術を生み出す原動力となった歴史を振り返る。造船や造兵、製鋼など、海軍工廠の優れた技術者たちが終戦時、そして戦後に辿った道のりはどのようなものだったのか。ダイクレ創業に集った人々の生き様を振り返りながらその歴史を未来に繋ぐ。

登壇者

鈴木淳 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授
千田武志 | 広島国際大学客員教授
山本貴 | 株式会社ダイクレ代表取締役社長
澤原義明 | 東京被爆二世・三世の会副会長
戸高一成 | 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）館長
*映像資料などを交えたトークイベントとして開催します。

閉場 : 16:30

関連企画 日本遺産 MONTH パネル展示

鉄の記憶プロジェクト公式 WEB



陸に生きる大和たち

"On Land: The Former Engineers of Battleship Yamato"
呉海軍工廠から平和産業へ―技術・教育・建築の記憶

2025年11月20日[木]～11月30日[日]

会場 呉市役所 1 階 多目的室北側

呉市役所：広島県呉市中央 4 丁目 1 番 6 号